文部科学省認可通信教育

たんぽぽ

vol.72

平成２２年１０月発行
発行者　放送大学
　　富山学習センター
責任者　所長 渡邉 裕司

新任のご挨拶

客員准教授　　田畑 真美

この４月から放送大学富山学習センター客員准教授となりました田畑真美と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私の専門は日本倫理思想史という分野で、倫理学の一部門にあたります。特に日本の神道・仏教・儒学のテキストを題材として、日本人が倫理、すなわち生のよりどころや指針をどのように捉えていたのかを探っています。もっと具体的に言えば、日本人は何に価値を見いだし、何を求め、何を信じて生きてきたのかということを考えるのですが、これらの何に価値を見いだすか、何を求めるか、何を信じるかといった問いは、日本人のみならず人間全体が共有する普遍的な問いであると言えます。つまり日本倫理思想史は、題材を日本のテキストという個別的で特殊な対象に求めますが、一方で普遍的な視野を保ちながら諸問題を考えていきます。普遍性と特殊性、その両方をバランスよく見据えながら、テキストと対話し、人間が共有すべき真理を探究していくのです。

分野の違いはあれ、学びというものは全て自己と他者をつなぐものであり、共に住む世界をより豊かにしていく共同作業であると言えます。放送大学で学ぶ皆さんが、学びを通して他者と対話し、お互いに世界を広げ合いながら真理を探究していく楽しみに出会われることを切に願います。

新任の挨拶に代えてといっては何ですが、つらくも楽しい学びの世界を歩むにあたって、皆さんに紹介したい文章があります。私の好きな江戸中期の思想家本居宣長（1730-1801）が国学の入門者に向けた文章です。壁にぶち当たったときの励みとして下さると、大変嬉しいです。

「詮ずるところ学問は、ただ年月長く倦まずおこたらずして、はげみつとむるぞ肝要にて、学びようは、いかようにてもよかるべく、さのみかかわるまじきことなり。いかほど学びかたよくても怠りてつとめざれば、功はなし。また人々の才と不才とによりて、その功いたく異なれども、才不才は、生まれつきたることなれば、力に及びがたし。されど、大抵は、不才なる人といえども、おこたらずつとめだにすれば、それだけの功はあるものなり。また晩学の人も、つとめ励めば、思いの外功をなすことあり。また暇のなき人も、思いの他、いとま多き人よりも、功をなすものなり。されば、才のともしきや、学ぶことの晩（おそ）きや、暇のなきやによりて、思いくずおれて、止むることなかれ。」（『うひ山ふみ』村岡典嗣校訂『うひ山ふみ　鈴屋答問録』岩波文庫 1934 表記は適宜改めた）